

うた ひつじの詩だより

2012. 4. 1
毎月発行 No.133
この頁にはご注文の品と
いっしょにお届けします

南の方から桜の便りが聞こえてきます。今年のお花見はどこへ行く？親しい人たちとそんな会話を交わします。ベランダでは水仙の花が満開。夕方になっても、そこだけいつまでもお日さまの光が集まっているみたいです。話に聞いたドイツの主婦の節約の精神をみならって、午後の手仕事は、どんどん窓辺に場所を移していきます。とうとう手元が見えづらくなって、部屋の明かりをつけると、窓の外の水仙の周りに集まっていた光もどこかへ消えてしまいます。まるで何かの魔法がとけたようで、仕方なく、私も夕方の家事にとりかかります。



4月のテーブル「イースターの準備」
「ふわふわしっぽと小さな金のくつ」(パルコ出版、デュ・ポウス・ハイワード作、マージョリー・フラック絵)の中では、5匹のイースターバニーが世界中の子ども達に幸運をよぶたまごを配ります。その準備の様子をイメージしてみました。
池上洋子

4月限定のキット 'hiyokosan'

今年の復活祭は4月8日。春の陽の光は生きとし生けるものを、幸せな気分を満たしてくれます。ひよこたちも、生まれ変わりの喜びの象徴ですね。昨年の震災のあとはキット「たまごの赤ちゃん」に復活の祈りを託しました。今年もひよこたちの黄色に元気をもらいましょう！価格は2羽のキットで800円です。



まりーさんの アトリエから 子供たちの共同制作のフェルト

「ペレのこひつじ」では、30人の子どもたちの終了式を終えました。いつもなら、アトリエの片隅に建つ小さなおひさまたまごのおうちで、良子先生からひとりひとりに密やかに終了証書が手渡されます。今年はあいにくの雨なので、全員が揃う中での授与式になりました。どんな終了証書ですか？それは子どもたちがそれぞれにじみ染めしたワトソン紙の表紙の1年の思い出のアルバムです。それにスタッフが心を込めて作った小さな贈り物を添えます。今年のおひさまたまごの小さな贈り物は・・・やはりひつじさんでした。

「ペレのこひつじ」は月に1回ですが、スタッフにとっては伝えられる相手がある喜びと、新しいことを吸収するためのエネルギーを貰う、貴重な1日です。そのために万全の準備を怠りません。ですから、贈り物の小さなひつじさんも、子どもたちとの1年を振り返りながら、一所懸命手を動かします。今年のおひつじさんは8本針のリリアンで白い毛糸の胴、黒の手作りフェルトで顔、脚はモールで作りました。小さくても本格サフォーク種です！

「もうひとつ、欲しいな・・・」と、子どもたちの顔に書いてあると、大成功！のしるし。可愛いなー。



〈作品展のおしらせ〉

4月1日(日)～28日(土) (月・木休館) 「小さな展覧会」
レスパイトハウス 檸檬 鎌倉市梶原 3-16-1 TEL:090-9396-3046 担当: 館崎晴美
4月25日(水)～29日(日) 11:00～18:00 (最終日16:00) 「春の宴展」
ギャラリースペース 遊 相模原市中央区千代田 2-2-15 TEL:042-856-1990 担当: 宮崎智子

ばたぼん通信

『蜂』

毎朝一番に寝室横の窓のガラリを開けます。おはよう、元気かな？箱の下の小さな玄関を必ず見ます。寒くてまだ姿を見せません。

さあ家族は皆行くべき所に行った後、頭にタオルを巻き、農家用の半分帽子を被り、その上からネット付き上着を着て、これまた農家用の先割れ長靴を履き、漁業用の長い手袋をして、いざ庭にある箱へ。箱の蓋をそっと開けると今日も元気にまず先攻の蜂が様子見に出て来て挨拶。箱とは蜂の養蜂箱の事です。

今日は巣枠を増やすのが仕事。寒い冬場が終わり、女王蜂が卵を産み始めるからです。巣枠にはキレイに点から徐々に大きくなっていく幼虫が並んでいます。目を動かすとまるで動画のように成長を見る事が出来ます。この光景が私は大変気に入っています。

養蜂箱を点検する時は必ず女王蜂を確認します。この時期の蜂さんの数は1万いるかな？位なのですぐに見つけ出す事が出来ますが全盛期の4万匹ですと苦労する時もあります。女王蜂に会えたら、声を掛けずいられません。まだまだ寒いけどたくさん子どもも産んでね！やら、素敵な姿ね！お世辞やら、もちろん小声ですよ。その間、蜂達は私に群がり様子を見えています。

飼うまでは知らなかった事だらけの蜂の生態系は知れば知る程に深く飽きさせません。蜂の寿命はだいたいひと月、産まれたらすぐに仕事が始まり毎日仕事は変わり、最後はいつ死んでも良い群れの番人になり生涯を終えます。刺せば命と引き換えなので命短い老蜂が最適という訳です。蜜を取りに行く蜂はいちばんの働き盛りの40代あたりでしょうか。そして働き蜂のすべてが皆メスです。

オスは群れの中で一割程。女王蜂と交尾する為に居ますが、女王蜂の結婚は一回きり、残りの未婚の雄蜂の末路は、悲しいかな箱から出される人員整理。蜂が蜂を抱え巣箱から運ぶ姿を何度も見た事がありますが、まさか不要な雄蜂を捨てていたとは。しかも雌蜂が！働きもしない雄蜂は蜜を食べるだけの…本を読んでこのシーンを納得した時は、はぁとしばし考え、読み返しました。こんな蜂の科学がたくさんあるから養蜂は楽しいのですね。

この楽しみをプレゼントしてくれた始まりは、数年前にばたぼんの集まりで行った『車山のぎんのさじ』ではちみつ蔵のお爺さまの、実に研究し尽くされた話、そして養蜂道具にありました。数ヶ月後はちみつ蔵に養蜂家研修に行き、すっかり蜂好きになりました。ばたぼん交流会での縁に感謝。感謝。

全人教育で知られる玉川大学の小原先生が言われた言葉、「蜜の流れる国を造ろうではありませんか」には相当な深い意味があった事を今理解し始めています。

最後になりましたが、人間の女性は二通り。強いか！または、ものすごく強いか！だそうです。私はもちろん…アハハ。貴方はどちらですか？

水谷みどり (鎌倉市在住)



クリスマスローズにとまった蜂

「スペース ペレのあたらしいふく」4月の開店日
2日(月)～14日(土) (日・祝を除く) 10:00～16:30

ホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当: 佐藤治子

♥スウェーデンひつじの詩舎♥
スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708

相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035